

モロッコ国地方水資源開発計画調査

(調査期間：2000年3月～2000年6月、担当業務：営農・栽培/土壌)

調査背景

モロッコの水資源は、1997年現在94カ所のダム/貯水池事業の開発により、その総貯水量は140億m³以上に達している。これらの事業が実施された地域ではその便益をうけているものの、事業の恩恵を受けていない農村地域では雨季さえ厳しい渇水状況のため、恒常的に水資源の不足が発生している。一方で、川沿いに居住する住民は異常洪水による家屋や耕作地流亡の被害を受けている。このような農村社会における農家経済を改善し、持続的な水資源利用、安定した灌漑農業を確立するため、モロッコ政府は中規模ダム建設等による水資源開発を中心とした地方部総合開発を推進しており、全国において53カ所のダムサイトを独自に調査を推進しており、一部計画に対する我が国の円借款供与を要請した。しかし、これまでマスタープランがなく、かつ既存のモロッコ側の調査内容では、経済財務分析、環境影響評価が不十分であるとの指摘を受け、全国レベルでの開発プライオリティ、地域計画との整合性、社会経済的インパクト、環境影響評価等を考慮した中規模ダム開発計画につき、1998年我が国に対し、開発調査に係る協力を要請してきた。

調査概要

モロッコ国・設備省により提案された中規模ダムに関する水資源開発計画を策定し、2000年7月末までに優先開発案件の選定(フェーズ1)、上記水資源開発計画に基づき選定された優先計画についてS/F調査を実施することである。

担当事項

- 対象地域の土壌土地利用、営農状況、農家経済に関する情報収集及び解析。
- 土壌調査、土壌図、土地利用図の作成。
- 新規導入作物、農産加工及び新規開拓の可能性の検討。
- 農業生産ポテンシャル及び栽培に係る阻害要因の把握。
- 優先地区における農業開発計画の策定。

